

事例 22

●性 別 ……………女性

●年 齢 ……………85 歳

●介護環境 ……………居宅

●最も類似する状態像の例 ……… 3－5

●要介護度変更 ……………要介護 2→要介護 3

●審査及び判定の概要

平成 3 年頃から物忘れが出現し、平成 7 年に脳血管性痴呆と診断され、現在、複数の問題行動等が見られる事例。

介護認定審査会では、「特記事項及び主治医意見書から、食事の見守りに対して 2～3 時間を要すること、昼夜逆転があること、危機認知力が低下していて常時の見守りが必要であることが記載されており、日常生活全般に一日中見守りが必要と考えられるのではないか」との意見が出された。また、日常生活自立度の組み合わせによる要介護度別分布についても検討を行い、これらを総合的に勘案し、要介護 3 に変更した。

介護審査会資料

申請区分：新規申請
被保険者区分：第1号被保険者

年齢：85
性別：女
過去の認定審査会結果：なし
前回認定有効期間：
前回介護保険審査会結果：なし
一次判定結果：要介護2
要介護認定等基準時間：64分
一次判定警告コード：
機能訓練+間接生活介助：

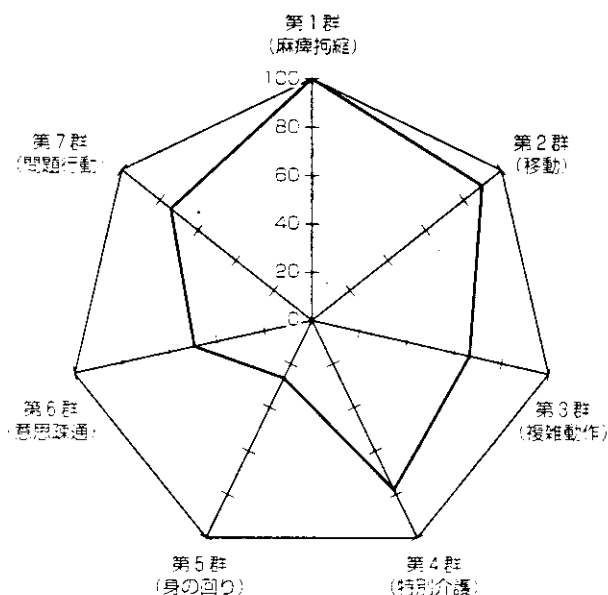
--	--	--	--	--	--

現在の状況
訪問介護（ホームヘルプサービス）：居宅
訪問入浴介護：0回/月
訪問看護：0回/月
訪問リハビリテーション：0回/月
居宅療養管理指導：0回/月
通所介護（デイサービス）：8回/月
通所リハビリテーション（デイケア）：0回/月
福祉用具貸与：0品目
短期入所生活介護：2日/月
短期入所療養介護：0日/月
痴呆対応型共同生活介護：0日/月
特定施設入所者生活介護：0日/月
福祉用具購入：0品目/6月間
住宅改修：なし

障害老人自立度：J2

痴呆性老人自立度：Ⅲa

中間評価項目表



中間評価項目得点

第1群	第2群	第3群	第4群	第5群	第6群	第7群
100.0	89.1	66.0	78.6	27.8	50.7	73.4

(特別な医療)

点滴の管理
中心静脈栄養
透析
ストーマの処置
酸素療法
レスピレーター
気管切開の処置
疼痛の看護
経管栄養
モニター測定
褥瘡の処置
カテーテル

第1群 1. 麻痺 (左-上肢)
(麻痺拘縮) (右-上肢)
(左-下肢)
(右-下肢)
(その他)
2. 拘縮 (肩関節)
(肘関節)
(股関節)
(膝関節)
(足関節)
(その他)

第2群 1. 寝返り
(移動) 2. 起き上がり
3. 両足での座位
4. 両足つかない座位
5. 両足での立位
6. 歩行
7. 移乗
自分で支えれば可
自分で支えれば可
つかまれば可

第3群 1. 立ち上がり
(複雑動作) 2. 片足での立位
3. 浴槽の出入り
4. 洗身
支えが必要
全介助

第4群 1. ア. じよくそう
(特別介護) イ. 皮膚疾患
2. 片手胸元持ち上げ
3. 嚥下
4. ア. 尿意
イ. 便意
5. 排尿後の後始末
6. 排便後の後始末
7. 食事摂取
ある
ときどきある
直接的援助
直接的援助
見守りが必要

第5群 1. ア. 口腔清潔
(身の回り) イ. 洗顔
ウ. 髪髪
エ. つめ切り
2. ア. ボタンのかけはずし
イ. 上衣の着脱
ウ. スボン等の着脱
エ. 靴下の着脱
3. 居室の掃除
4. 薬の内服
5. 金銭の管理
6. ひどい忘れ
7. 周囲への無関心
一部介助
一部介助
一部介助
全介助
一部介助
一部介助
全介助
ある
ときどきある

第6群 1. 視力
(意思疎通) 2. 聴力
3. 意思の伝達
4. 指示への反応
5. ア. 毎日の日課を理解
イ. 生年月日をいう
ウ. 短期記憶
エ. 自分の名前をいう
オ. 今の季節を理解
カ. 場所の理解
やっとならえる
ほとんど不可
ときどき通じる
できない
できない
できない

第7群 1. 被害的
(問題行動) 2. 作話
3. 幻視幻聴
4. 感情が不安定
5. 昼夜逆転
6. 暴言暴行
7. 固執話をする
8. 大声をだす
9. 介護に抵抗
10. 常時の徘徊
11. 落ち着きなし
12. 外出して戻れない
13. 一人で出たがる
14. 収集癖
15. 火の不始末
16. 物や衣類を壊す
17. 不潔行為
18. 異食行動
19. 性的迷惑行動
ある
ある

認定調査票（特記事項）

2. 移動等に関連する項目についての特記事項

(2-6 歩行) 屋内外にかかわらず、壁をつたって歩行している。人に寄りかかって歩く時は全体重をかけてくる。デイサービスでは車いすを使用。

3. 複雑な動作等に関連する項目についての特記事項

(3-4 洗身) 介護者の指示があれば部分的にタオルでなでる程度は行いが、後で介護者が洗いなおす。

4. 特別な介護等に関連する項目についての特記事項

- (4-1 イ 皮膚疾患の有無) 尾てい骨をついて畳に座っていることが多く、尾てい骨周辺が赤くなったり、治ったりをくり返している。現在、軟膏を塗布。
- (4-4 ア 尿意) 夜間、トイレに行かないこともあり、朝、オムツをとり換えるときに尿をしてしまっているの、毎朝とり換える。
- (4-5 排尿後の後始末) 一人でトイレに行った後は必ず家族が便座を拭いている。身体のはうはちゃんと拭ききれておらず臭うことが多いので、ベッドに横にして介護者が拭き直す。
- (4-7 食事摂取) 一人で食べると、食べ物を持ったままきよろきよろしてしまうため、2～3時間かかってしまう。

5. 身の回りの世話等に関連する項目についての特記事項

- (5-1 ア 口腔清潔) 上は義歯。下は部分義歯。介護者が指示すれば、残歯の歯磨きを行う。義歯の手入は介護者が行う。
- (5-2 衣服着脱) 必ず介護者の見守りと指示がないと、脱いだものをまた着たりしてしまう。着方もめちゃくちゃなので、介護者が整える。
- (5-4 薬の内服) 飲み終わるまで介護者の指示と見守りがないと、きちんと飲めない。

6. コミュニケーションに関連する項目についての特記事項

- (6-3 意思の伝達) 発語が少なく、自分から進んで意思を伝えることはほとんどない。
- (6-5 イ 生年月日をいう) 生年月日は概ね正確に答えられるが、年齢は52、3歳と答える。

7. 問題行動等に関連する項目についての特記事項

- (オ 昼夜逆転) 夜中に家族が起きていると、食事はまだかと思い、起きてくる
ことが週に2～3回ある。
- (ケ 介護に抵抗) 外に出たい時に阻止すると抵抗することがある。
- (サ 落ち着きなし) 年に1～2回、S市に住んでいる娘の家に行くと、2～3日
で帰りたがって外に出ようとする。
- (ス 一人で出たがる) 天気が悪くても夕方でも玄関や窓から外へ出てしまうた
め、常に誰かが家に居るようにしている。裸足で出てしまうこともある。
- (ソ 火の不始末) 台所に鍵をかけて、火元に近づかないようにしている。

概況調査 IV

「調査対象者の主訴、家族状況、住居環境、虐待の有無等について特記すべき事項」

- ・ 3世代同居世帯。同居している長女夫妻も体調が悪く通院している（長女の夫は年に数回検査入院をしている）。長女の娘には2歳になる子供がおり、調査対象者が薬を落としたり、トイレを汚したりすることに家族全員で神経を使っている。

主治医意見書

記入日 平成11年 11月 〇日

申請者	(ふりがな)	男・女 ②	〒 —
	明・大・昭 年 月 日生(85歳)		
上記の申請者に関する意見は以下の通りです。 本意見書が介護サービス計画作成に利用されることに ☐ 同意する。 ☐ 同意しない。			
医師氏名		電話 ()	
医療機関名		FAX ()	
医療機関所在地			
(1) 最終診察日	平成 11年 11月 〇日		
(2) 意見書作成回数	☒ 初回 ☐ 2回目以上		
(3) 他科受診の有無	☐ 有 ☒ 無 (有の場合)→ ☐ 内科 ☐ 精神科 ☐ 外科 ☐ 整形外科 ☐ 脳神経外科 ☐ 皮膚科 ☐ 泌尿器科 ☐ 婦人科 ☐ 眼科 ☐ 耳鼻咽喉科 ☐ リハビリテーション科 ☐ 歯科 ☐ その他 ()		

1. 傷病に関する意見

(1) 診断名 (特定疾病または障害の直接の原因となっている傷病名については1. に記入) 及び発症年月日			
1. 多発性脳梗塞	発症年月日	(昭和・平成 7年 月 日頃)	
2. 脳血管性痴呆	発症年月日	(昭和・平成 7年 月 日頃)	
3.	発症年月日	(昭和・平成 年 月 日頃)	
(2) 症状としての安定性		☒ 安定 ☐ 不安定 ☐ 不明	
(3) 介護の必要の程度に関する予後の見通し		☐ 改善 ☐ 不変 ☒ 悪化	
(4) 障害の直接の原因となっている傷病の経過及び投薬内容を含む治療内容 (最近6ヶ月以内に変化のあったもの 及び 特定疾病についてはその診断の根拠等について記入)			
処方: 多発性脳梗塞に対して抗血小板剤。 他に高脂血症、狭心症があり、高脂血症治療剤、狭心症治療剤。			

2. 特別な医療 (過去14日間以内に受けた医療のすべてにチェック)

処置内容	☐ 点滴の管理	☐ 中心静脈栄養	☐ 透析	☐ ストーマの処置	☐ 酸素療法
	☐ レスビレーター	☐ 気管切開の処置	☐ 疼痛の看護	☐ 経管栄養	
特別な対応	☐ モニター測定(血圧、心拍、酸素飽和度等) ☐ 褥瘡の処置				
禁禁への対応	☐ カテーテル(コンドームカテーテル、留置カテーテル等)				

3. 心身の状態に関する意見

(1) 日常生活の自立度等について	
・障害老人の日常生活自立度(寝たきり度)	☐ 正常 ☐ J1 ☐ J2 ☒ A1 ☐ A2 ☐ B1 ☐ B2 ☐ C1 ☐ C2
・痴呆性老人の日常生活自立度	☐ 正常 ☐ I ☐ IIa ☐ IIb ☒ IIIa ☐ IIIb ☐ IV ☐ M
(2) 理解および記憶	
・短期記憶	☐ 問題なし ☒ 問題あり
・日常の意思決定を行うための認知能力	☐ 自立 ☐ いくらか困難 ☐ 見守りが必要 ☒ 判断できない
・自分の意思の伝達能力	☐ 伝えられる ☐ いくらか困難 ☒ 具体的要求に限られる ☐ 伝えられない
・食事	☒ 自立ないし何とか自分で食べられる ☐ 全面介助
(3) 問題行動の有無 (該当する項目全てチェック)	
☒ 有 ☐ 無	
(有の場合)	☐ 幻視・幻聴 ☐ 妄想 ☐ 昼夜逆転 ☐ 暴言 ☐ 暴行 ☐ 介護への抵抗 ☒ 徘徊 ☒ 火の不始末 ☐ 不潔行為 ☐ 異食行動 ☐ 性的問題行動 ☐ その他 ()

(4) 精神・神経症状の有無
☐有 (症状名) ☒無
(有の場合) → 専門医受診の有無 ☐有 () ☐無

(5) 身体の状態
利き腕 (☒右 ☐左) 体重 = kg 身長 = cm

☐ 四肢欠損	(部位:)	程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重
☐ 麻痺	(部位:)	程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重
☐ 筋力の低下	(部位:)	程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重
☐ 褥瘡	(部位:)	程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重
☐ その他皮膚疾患	(部位:)	程度: ☐ 軽 ☐ 中 ☐ 重

凡例

☐関節の拘縮 ・ 肩関節 ☐右 ☐左 ・ 股関節 ☐右 ☐左
・ 肘関節 ☐右 ☐左 ・ 膝関節 ☐右 ☐左
☐失調・不随意運動・上肢 ☐右 ☐左 ・ 体幹 ☐右 ☐左
・ 下肢 ☐右 ☐左

4. 介護に関する意見

(1) 現在、発生の可能性が高い病態とその対処方針
☒尿失禁 ☒転倒・骨折 ☒徘徊 ☐褥瘡 ☐嚥下性肺炎 ☐腸閉塞 ☐易感染性
☐心肺機能の低下 ☐痛み ☐脱水 ☐その他 ()
→ 対処方針 (見守りが必要)

(2) 医学的管理の必要性 (特に必要性の高いものには下線を引いて下さい)
☐訪問診療 ☒短期入所療養介護 ☐訪問栄養食事指導
☒訪問看護 ☐訪問歯科診療 ☐その他 ()
☐訪問リハビリテーション ☐訪問歯科衛生指導
☒通所リハビリテーション ☐訪問薬剤管理指導

(3) 介護サービス (入浴サービス、訪問介護等) における医学的観点からの留意事項
・ 血圧について ☒特になし ☐あり ()
・ 嚥下について ☒特になし ☐あり ()
・ 摂食について ☒特になし ☐あり ()
・ 移動について ☐特になし ☒あり (見守りが必要)
・ その他 ()

(4) 感染症の有無 (有の場合は具体的に記入して下さい)
☐有 () ☒無 ☐不明

5. その他特記すべき事項

要介護認定に必要な医学的なご意見等をご記載して下さい。なお、専門医等に別途意見を求めた場合はその内容、結果も記載して下さい。(情報提供書や身体障害者申請診断書の写し等を添付して頂いても結構です。)

痴呆症状が進行し、徘徊が認められ、危険認知力は低下しており、常時の見守りが必要。

